

第3回 2019年度 全国公立高校入試 出題傾向まとめ

「新大学入試」を見据えて、確実に変化しています！

国語

■2019年度入試 全国的な特徴と傾向

- ・問題構成や出題内容は例年通りです。
- ・作文は昨年に引き続き、「資料を読み取るタイプ」が多いですが、「読み取った内容の要約」に加え、「自分の意見」も書かせる、従来型の作文が再び主流となってきています。

■共通テストプレテスト・新学習指導要領の影響

- ・「情報の整理」に関する問題が目立つようになっていきます。身近な題材(学級新聞・お店のチラシ・新聞記事など)と会話文で構成された大問が多く出題されています。
- ・古典は内容理解が会話形式で展開され、空所補充させる形式が増加傾向にあります。

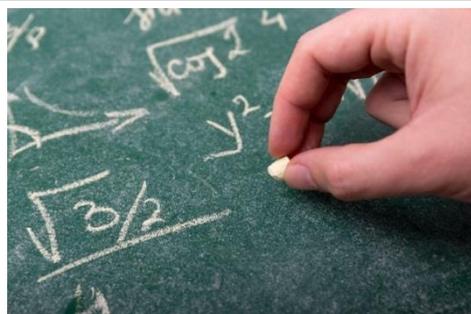
数学

■2019年度入試 全国的な特徴と傾向

- ・「複数単元融合問題」や設定の凝った問題は、流行が西より北上傾向がみられます。
- ・東北・関東で高難度の「関数」「図形」の出題が目立っています。

■共通テストプレテスト・新学習指導要領の影響

- ・「製本の方法」「座席の座り方」「ラグビーのルール」など日常生活を意識させる問題が増加しています。難しいというよりは、「手間がかかる」という問題が目につくようになっていきます。
- ・思考力系の問題は「空所をうめる型」で順を追って考えさせる形式が主流になっていく可能性も出ています。



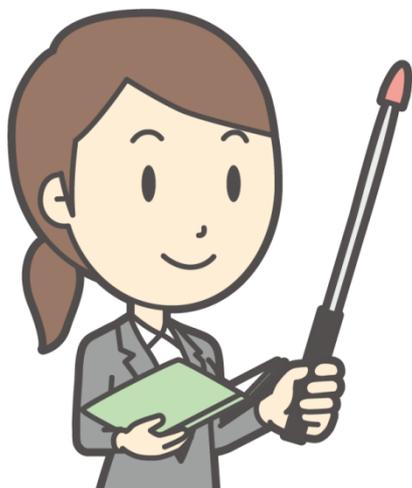
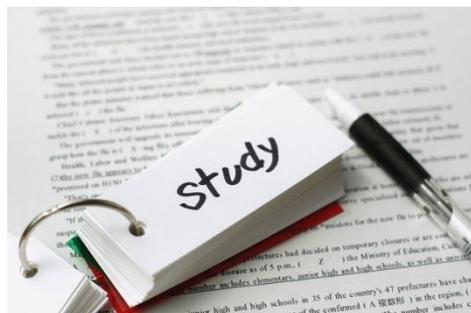
英語

■2019年度入試 全国的な特徴と傾向

- ・長文のテーマがより専門的になっています。2019年度頻出テーマは「エコ(ごみの分別・自然保護)」「日本の伝統文化」「発展途上国支援」「増加する外国人観光客」などです。
- ・語彙力・基礎的な文法が内容把握の問題で問われるため、全体的な難易度は上昇。

■共通テストプレテスト・新学習指導要領の影響

- ・資料や問題が全て英語表記になる問題が増える可能性があります。
- ・英作文は「絵の状況説明」「日本や日本文化についての説明」「意見英作文」が三本柱！
- ・「意見英作文」のテーマは「考えさせる」ものが増えていきます。



## 理科

### ■2019年度入試 全国的な特徴と傾向

- ・「完答で得点」となる問題は 1 県平均6.0問！一問一答式での対策で解答可能な問題は減り、原理原則の理解を問う問題が大半を占めるようになっていきます。
- ・思考力系の問題は、奇をてらった設定の問題はなく、従来型の典型題に手を加えた形式の問題が多くありました。

### ■共通テストプレテスト・新学習指導要領の影響

- ・新学習指導要領の影響で、「火山」「地震」といった災害関連の問題が目立つようになっています。また気象関連の問題も、近年増加傾向にあります。
- ・問題文の長文化は進む一方です。複数の資料の比較・検討が必要な問題も増えていきます。



## 社会

### ■2019年度入試 全国的な特徴と傾向

- ・公民の用語は過去に出題がないものまで対策必至に！「TPP(環太平洋パートナーシップ協定)」「CSR(企業の社会的責任)」「マイクロクレジット」などの時事問題を反映した用語の出題が増えています。
- ・記述問題は知識をベースに資料の内容を盛り込むタイプの、表現力を要する問題が定番になっている県も出ています。

### ■共通テストプレテスト・新学習指導要領の影響

- ・移行措置内容である「領域」「殖産興業」に関する問題が一気に増加しました。
- ・「正しい組み合わせを考える」問題において選択肢の多い設問が増加中です。流れや関連性を重視する傾向が強まっています。



### ■これから受験する皆さんへのアドバイス

- ①「知識・技能」は多くの生徒にとって最重要事項で、問題を解く「土台」だから、最優先にしよう!!
- ②「記述問題」での「表現力・記述力」を見られる問題が増加しているので、答えを「文章で書く」問題には特に注視して、勉強を進めよう!!